

令和7年度

府中市立府中第九小学校 学校経営計画

校長 日野 正宏

1 学校経営の基本的な考え方

○学校教育の基本的な役割は、知・徳・体の調和のとれた教育を行うとともに、生涯学習の理念の実現に寄与することである。基礎・基本を徹底し、確かな学力の定着を図り、生涯にわたる学習の基盤をつくることや、共同生活を通じて、人間性や社会性など豊かな心と健やかな体を育成すること、さらには一人一人の長所を見出し、その個性・能力の伸長を図っていくことは、普遍的な役割であるといえる。

○また、社会の在り方の変化が激しく、将来の予測を立てることが困難な昨今の状況にあって、学校教育を通して今後育てていく子供の姿として、理想を実現しようとする高い志や意欲をもって、主体的に学びに向かい、必要な情報を判断し、自ら知識を深めて個性や能力を伸ばし、人生を切り拓いていくことができること、対話や議論を通じて、自分の考えを根拠とともに伝えるときにも、他者の考えを理解し、自分の考えを広げ深めたり、集団としての考えを発展させたり、他者への思いやりをもって多様な人々と協働したりしていくことができること、よりよい人生や社会の在り方を考え、試行錯誤しながら問題を発見・解決し、新たな価値を創造していくとともに、新たな問題の発見・解決につなげていくことができること、などが挙げられる。

○これらのことを踏まえながら、学校経営の基本的な考え方として以下のことを重視する。

・「子供」を中心とする教育活動を、考え実行する。

これまでの教育活動の成果を生かしながら、子供たちの資質・能力の一層の向上のための改善を積極的に実施する。

・学校が「組織」として、様々な教育課題の対応・解決に当たる。

教職員の連携・協働体制の確立・状況に応じた見直しを通して、組織体としての機能を一層発揮することで課題の効果的かつ効率的な解決を図る。

・学び続ける教員による不断の授業改善・指導力向上を追求する。

授業研究や研修、教員間の交流を活発化されることを通して、熱意をもって、子供に寄り添い、子供を成長させる教員、指導の専門性を高めるために学び続ける教員を育成する。

・学校の教育活動の意義や成果を家庭・地域と共有する。

家庭・地域は教育の重要な担い手であることを踏まえ、学校からの情報発信や家庭・地域の願いの傾聴などにより、子供の学びと育ちを協働して創っていく。

2 府中市立学校としての教育の充実

令和4年(2022年)に策定された第3次府中市学校教育プランでは、目指す人間像として、「【人権感覚と規範意識】他者も自分も大切にする、思いやりと規範意識のある人」、「【社会的な資質・能力】社会の一員としての自覚を持ち、社会に貢献しようとする人」、「【確かな学力】自ら学び考え行動する、個性と想像力豊かな人」を挙げている。本プランを受けて、義務教育9年間の系統的・継続的な取組により、特に重視して育成を目指す資質・能力として「課題を発見し、課題解決に主体的に向き合い、自分の考えを形成するとともに他者と協働しながら合意形成を図り、よりよい自己を実現する力」が示され、こうした資質・能力の育成のために全ての教育活動に取り入れる視点として「発見すること(意欲・好奇心・課題発見等)」「対話すること(コミュニケーション力・多様性等)」「決定すること(自己調整力・批判的思考力)」「表現すること(実行力・表現力・責任感等)」が明

示されている。またデジタル教科書の活用、タブレット端末の活用、家庭学習の充実も本校の重要な課題となる。

教育活動の実施に当たっては、これらのことを念頭に置き、目指す人間像の実現に向けた努力や工夫、改善に取り組む。

3 目指す学校像

- 子供たちが自分に自信をもって主体的に活動し、互いに認め合い、高め合える学校
- 教師が自ら学び、自ら考え、子供たちの成長を支える学校
- 家庭・地域と連携し、子供たちの成長をともに考え、喜び合える学校

学校が楽しいと感じられているとき、自己の目標が達成できたり、他者との関わりに気持ちよさを感じたりしたときに、人は自然に笑顔になることから、「一人一人の児童を笑顔に・学校に集う全員を笑顔に」することを大切にしていく。

4 学校の教育目標

- 思いやりのある子
- よく考える子
- やりぬく子

5 教育目標の具現化のために(中期的目標と方策)

- 思いやりのある子「人間関係形成力」
 - ・人権教育、道徳教育を基盤にした望ましい人間関係の構築
 - ・「他者も自分も大切にすること」に根差した相手意識や規範意識の向上・インクルーシブ教育の理解
 - ・体験活動や様々な人々との交流を通じた豊かな心や感性の育成
 - ・「ふたば学級」児童と通常の学級の児童との交流や「ふたば学級」「ひばり教室」での支援・指導の知見の全校的な交流の充実
 - ・「未来へつなぐ府中2020レガシー」の取組等を契機とする地域・社会貢献の態度の育成
- よく考える子「問題解決力」
 - ・計画的な反復や振り返りの活動を重視した基礎的・基本的な学力の定着
 - ・発表・記述・対話、調査分析・比較検討、多様な表現方法等の活動を取り入れた思考力・判断力・表現力の育成
 - ・「発見すること」「対話すること」「決定すること」「表現すること」の視点を踏まえた学習プロセスに基づく問題解決的な学習の推進
- やりぬく子「実践力」
 - ・目標設定と振り返り、運動の楽しさに触れる機会の活用による体力・運動能力の向上
 - ・意義の理解や主体性を重視した健康教育、安全教育、食育の推進
 - ・自尊感情、自己肯定感の向上や成功イメージをもたせる創造的体験、周囲からの励ましや承認を大切にした失敗を恐れず、やり抜く力の育成

6 今年度の取組目標・重点とする取組

(1)「学ぶ喜び」のある学校～確かな学びを通した「生きる力」の育成～

○基礎的・基本的事項の定着を基盤とする子供たちが「分かる」「できる」を実感できる授業の実践

・目標設定と振り返り、教員からの励ましを大切にして、繰り返し練習することで習得度が高まる学習への意欲向上を図る。

・算数科では、「つまずき」や「学び残し」の解消を図るため、習熟度別指導を工夫し、児童一人一人の実態をきめ細かく把握しながら、知識・技能の確実な定着を図る。

・家庭学習におけるタブレット端末の活用を充実させ、家庭学習と学校での授業の関連性を高める。

○主体的・対話的で深い学びの実践、カリキュラムマネジメントの推進

府中第九小学校としての「個別最適な学び」「協働的な学び」の進め方を校内で共有、発展させるために「授業改善推進委員会」を立ち上げ、「習得・活用・探究」の学習過程や「発見すること」「対話すること」「決定すること」「表現すること」の視点を踏まえた問題解決的な学習を単元指導計画に組み込み授業実践できることを目指す。

・東京都教育委員会「デジタルを活用したこれからの学び研究実践校」「デジタル教科書活用推進事業モデル校」として、デジタル教科書やタブレット端末を活用した授業の充実を図る。

・一部教科担任制、交換授業、合同授業等、学級、学年を越えた授業形態の工夫を積極的に導入し、多くの教員が多面的に児童を育てるとともに、より良い授業づくりや指導計画の改善についての意見交流を促進する。

・「フレンド学級」「交流及び共同学習」等、多様な学習形態を通した教え合いや学び合いによる学習の充実を図る。

・研究・研修での学びを共有し、実践し、効果検証を図ることにより、学び続ける教師集団を育成する。主幹教諭を中心に校内のミニ研修会を充実させる。

(2)「ふれあい」のある学校～豊かな心を育む～

○様々な人々、多様な価値観との関わり合い・触れ合いの機会を創出し、そこでの体験や気づきを大切にしながら、思いやりの心を育てる。

・令和5年度までの人権尊重教育校としての取組の一層の充実・発展に努める。自他の生命を大切にし、人権意識や正義感、自己有用感、自尊感情、社会貢献意識などを高めるとともに、特別支援教育の視点を加味した道徳授業や人権を尊重する教育を充実させる。

・生活指導体制、特別支援教育体制を充実させ、認め合い、支え合い、高め合う豊かな人間関係を育成する。

・校内研究のテーマを「みんなで創る学びの輪～特別支援教育の視点を取り入れた実践を通して～」として、児童が授業での交流を始め、縦割り班活動(フレンド学級)や挨拶運動、給食の時間や清掃活動などの学校生活の中で多様な交流をし、体験を通した気づきや考えの深まりを生み出すことに取り組む。特に本校の特色であるふたば学級と通常の学級との交流がコロナ禍によって中断してしまっていることを踏まえ、これまで実施されていた交流を基盤に、子供たちの成長に一層資する取組を検討する。

・学習指導・生活指導・特別活動において「先の見通しをもつ」ことに着目した指導の工夫を図り、児童が自ら考えて行動したり、合意形成等を通して活動をよりよくしていこうとしたりする主体性を育てる。

・音楽専科教員を中心に音楽集会を充実させるとともに、特色ある活動として位置付いている九小の歌声のさらなる充実を図る。また、図画工作作品の校内展示を日常的に行い、作品とふれあう機会を多く設定することで、互いのよさを認め合う機会を増やす。

・ESD(持続可能な開発のための教育)において、環境、気候変動、生物の多様性等について調べ、考えることを通して、社会にある課題を身近な自らの問題として捉えることができるようにする。また、手話を中心にデフリンピックと関連付けた障害者理解教育を推進し、誰もが相互に理解し合い尊重し合える共生社会の一員としての資質を育てる。

(3)たくましさを育てる学校～健やかな体をつくる～

○運動やスポーツとの多様な関わりを通して、子供たちが、健康で活力に満ちた生活を自らデザインできる資質・能力の育成を図る。

・体育科授業の充実、日常の休み時間での外遊び、体力テスト、府中ロープチャレンジ等の取組を通して、体力・運動能力の向上を図る。

- ・保健の授業や身体測定時の健康指導、校内掲示等を活用して、健康に関する情報を子供たちに伝え、考えさせることを通して、自らの生活をよりよくしていこうとする態度を養う。
- ・オリンピック・パラリンピアン等を専門性の高いアスリートゲストティーチャーとして招聘し、「本物のすごさ」を味わわせたり、運動の楽しさを実感したり、技能の向上のポイントを知ったりする活動を充実させる。
- ・学務保健課や給食センター栄養士との連携を図り、食育を通じた給食指導や授業を実施する。

(4)「安全・安心・信頼」のある学校

○児童の安全を最優先事項とし、教員の意識の鋭敏性を高める

- ・熱中症対策の徹底を図る。府中市教育委員会の「熱中症から子どもを守る6つの工夫」を踏まえ、6月から9月までの「熱中症予防要配慮月間」における教育活動を空調の効いた室内等で実施できるよう工夫する。児童の休み時間に体育館を使えるようにするなど新たな工夫を取り入れ
- ・いじめの未然防止、早期発見、早期対応を徹底する。特に未然防止の取組に注力し、子供たち自身が「いじめを絶対に許さない」という心情をもてるよう指導を工夫する。
- ・不登校防止のために、連続欠席3日目には必ず保護者と担任が直接話し、不登校につながらないような方策を立てる。
- ・食物アレルギー対策や医療的ケアの対応を徹底する。また、社会情勢を踏まえ、必要な感染症対策を実施する。
- ・子供たちの「安全・安心・信頼」と「確かな成長」の視点から教育環境を整備する。
- ・防災訓練や交通安全教室など保護者・地域と連携した安全・健康教育等の充実を図る。
- ・保護者・地域、関連教育機関、学童クラブ等との情報共有を通して、子供たちの健全育成の充実・改善を図る。
- ・スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、みらい、児童相談所等、関係機関と迅速に連携し、支援体制の強化を図る。

(5)一人一人の子供を大切にする学校

○ノーマライゼーションを重視し、誰もが共に生き生きと活動できる学校創りを目指す。

- ・毎週開催する校内委員会において、教員間の児童理解の深化を図り、一人一人の子供に寄り添った組織的な指導体制の構築を目指す。
- ・本校の大きな特長である「ふたば学級」「ひばり学級」設置校であることを生かし、交流・共同学習の充実や指導の工夫の交流などを推進する。また副籍制度による居住地交流を推進する。
- ・通常の学級における合理的配慮の在り方や授業のユニバーサル・デザイン化などについての教員研修・校内研究を充実させ、子供たちが負担なく学べる環境づくりに取り組む。
- ・異学年交流や多様性の理解の機会、外部講師の講話などを積極的に取り入れ、子供たちが新たな価値観に出会う機会の充実を図る。

(6)「小中連携、一貫教育」を推進する学校

○義務教育9年間の系統的・継続的な取組により子供たちの資質・能力を育成する。

- ・小中連携、一貫教育を推進し、小中学校の良さを互いに生かし合う教育を推進し「課題を発見し、課題解決に主体的に向き合い、自らの考えを形成するとともに他者と協働しながら合意形成を図り、よりよい自己を実現する力」を育成する。
- ・「デジタルを活用したこれからの学び研究実践校」として、府中第一中学校が取り組んでいる「デジタルを活用したこれからの学び」の研究に学びながら、デジタル教科書やタブレット端末を効果的に活用し、児童が「学習の主体者」となる授業実践を目指す。
- ・教員同士の学校公開を年間3回設定し、小・中学校の教員同士が互いを「分かり合う」場面を設定する。加えて、不登校児童・生徒に関する情報を積極的に共有し、課題の早期解決に協働して努める。中学校訪問の内容の充実を図り、児童の中学校進学へのイメージを深めることで学校間の円滑な移行を図る。

(7)家庭・地域と連携する学校

○それぞれのもつ長所を生かしながら、家庭・地域とともに子供たちを育てる。

- ・日々の子供の様子を積極的に伝えることを通して家庭と学校の連携を深めることに努めるとともに、ケガや事故等についてはその日の内に保護者と連絡を取り合い、状況を共有する。

- ・土曜授業公開や道徳授業地区公開講座を中心に、学校の教育活動を保護者・地域の人々が参観する機会を活用し、家庭の願いや地域の願いを学校の教育活動に反映させる。
- ・コミュニティスクールを推進し、学校・家庭・地域が一体となってすべての子供たちをたくさんの大人の力で育てる「もう一つの家族のような学校」を目指す。
- ・地域がもつ教育力を活用するために、地域人材の授業参画や地域の教育資源の開発に積極的に取り組む。地域防災訓練など既存の取組の継承、発展に努める。

(8) 地域や学校を大切にできる心情を育てる学校

○郷土府中を愛する心や「この学校に通えてよかった」と感じられる心情を育む教育の推進

- ・「未来へつなぐ府中 2020 レガシー」において、郷土の森博物館等の施設や外部人材を活用しながら調べ学習や体験的な学習を実施することや「郷土府中に根ざした道徳資料集」・「わたしたちの府中」「郷土府中」を活用することにより、郷土府中を知り、街の特色や課題を調べ、持続可能な発展の担い手となる意識を育む。
- ・子供たちの、学校や学級をより良くしようとする取組や学校行事等への貢献などを積極的に価値付け、周知することで、子供たちが本校の良さを感じることができるようにする。
- ・卒業生や、異動した教職員が学校に戻ってきて行事等に関われるような仕組み、「サーモン計画」を作り、将来にわたって学校を大切にできる心、愛する心を育てていく。

(9) 教育予算を効果的に活用し、教員の働き方改革を推進する学校

- ・学校経営支援予算を的確に運用し、適材適所に人材を配置し、児童が安心して学べる環境を整える。
- ・副校長等校務改善事業を積極的に活用することや、業務内容、行事等の精選を図ることで、業務の効率化を図り、教員が子供たちと向き合ったり、自己研鑽したりする時間を増やす。
- ・Te-comp@ss やスマート連絡帳をはじめとする校務支援ソフト等の有効活用や、会議の精選等、業務の見直し(スクラップ&ビルド)、修正を繰り返すことで業務の整理を図るとともに、地域、保護者の理解を得るための発信を行い、教員が働きやすい職場づくりを推進し、子供たちと元気に向き合える環境を整える。